

第25回山のトイレフォーラムの記録

2024年（R6年）3月9日（土）札幌エルプラザ

1. 報告：日高山脈の山小屋とトイレの調査結果（要旨）

山のトイレを考える会 事務局長 仲俣善雄

2022年～2023年にかけて日高山脈の山小屋とトイレ14箇所について調査した。その報告書はフォーラム資料集の資料06にまとめてある。強く印象に残ったのは『安全で快適な環境で登山者を迎えたいと、地元の山岳会等が市町村役場と連携して、山小屋やトイレの維持管理、登山道整備に熱意をもって取り組んでいた』ことである。これは誇れることである。しかし一部のトイレで管理者が明確になっていない所もあった。

国立公園化されると登山者が増加することは明らかである。国立公園の品格はトイレで決まると思っている。トイレが汚いと維持管理を怠っている国立公園となる。野営地にティッシュや汚物が散乱していると携帯トイレも使っていないのかとなる。トイレを汚しっぱなしの人は必ずいる。定期的な維持管理の実施、登山者が自ら清掃する仕組みが必要である。

国立公園化直後に行政機関及び民間団体からなる総合型協議会が設立され、ビジョンや管理運営計画が策定される。今回の調査資料やパネルディスカッションの内容をぜひ参考に、世界に誇れる国立公園を目指して有意義な議論をして欲しい。

2. パネルディスカッションの内容

テーマ：「どうする！どうなる？日高山脈国立公園化」

～トイレ・避難小屋・野営地・登山道～

【パネラーの主張】

○山北育実さん（環境省帯広自然保護官事務所）

- ・H16に入省。3年前に帯広自然保護官事務所に着任。レンジャー1名。アクティブレンジャー1名。今年夏頃指定予定の日高山脈及び周辺地域の国立公園化を見据え、R6年4月に新ひだか町静内に新ひだか自然保護官事務所が開設される予定。
- ・H22年頃の国定・国定公園総点検事業にて、国立公園新規指定候補地として上がったことを受け、H28～30年に自然環境調査を実施の結果、国立公園の資質に相応しい景観要素が確認されたことから、R2年から本格的に国立公園指定に向け土地所有者や関係機関等との調整を開始。概ね事前調整がととのい、R5年11月～12月にパブリックコメントを実施した。今後、R6年春頃に中央環境審議会への諮問・答申を経て、R6年夏頃に国立公園に指定予定である。
- ・公園計画について…「区域」「地種区分（規制レベル）」「利用施設計画」からなる。利用施設計画とは、国立公園の利用を推進するために必要な施設の計画。登山道などの歩道計画や避難小屋等の単独施設がある。登山道は18路線を計画している。日高山脈にはほかにも登山道があるが、その中で①一定の利用者があり、②関係自治体において活用の意向があるか、③登山道のうち一部区間でも笹刈り等、管理の手が入っているかを、歩道計画に位置づける選定の目安とした。
- ・総合型協議会…国立公園指定直後に行政機関及び民間団体からなる総合型協議会を設立予定。本協議会において、登山道の保護と利用に関する具体的事項を検討予定。野営指定地、登山道

整備、トイレなどの課題についても検討予定。

○齊藤邦明さん（十勝山岳連盟）

- ・十勝側では今までトイレについて殆ど気に留めていなかったというのが現状。原始的な所が多く、登山道に糞尿の跡があったとか聞かなかった。ただ八ノ沢は結構人が入っているので変わってくるのかなど。日帰りの山の登山口には汲み取り式トイレがいいのかなと思っている。十勝側には山の入口が11ヶ所ある。そのうち日帰りの山は6ヶ所。トイレは6ヶ所ある。使えない所が2ヶ所。トッタベツヒュッテもその一つ。営林署の小屋で1998年ころに取り壊す予定だったが、冬に札内岳やエサオマンに登るには最終人家から遠いことから避難所として残してもらった。小屋の維持管理は十勝山岳連盟でやっている。トイレは2016年の豪雨で浸水し、使えなくなった。
- ・これから登山者には携帯トイレが義務付けられるのだろうと思う。本州の登山者も携帯トイレを持参する人が多くなってきた。回収ボックスの場所は、最終人家のあたりでも設置してくれるればゴミ収集車が回収できるのではないか。大雪山では携帯トイレ普及に20年かかっている。日高ではまだまだ持参していない人が多い。普及にはそれなりの時間がかかると思う。
- ・ヒグマ…S45年カムエクで3人が亡くなった。その後は2019年に2人襲われている。最近是人慣れした熊が増えており、結構そばに寄ってきてやっかい。「熊は個人の責任」との話もあるが、一旦熊に襲われると、その熊は何回でも人を襲う。場所により熊よけスプレーの携行も必要と思っている。
- ・登山道…2016年の台風で芽室岳、剣山では500mmの雨が降り、3～4年山に入れなかった。最近壊れた砂防ダム工事で道路が修復、この2～3年で登山者が増えた。芽室岳の登山道は2021年と2022年に遭難者がでないように整備をした。ネットでその情報が拡散して登山者が膨大になり登山道が崩れてきた。残念ながら過去に整備をしていた山岳会が高齢化で解散。そうすると誰がやるか、みんなが何とか助け合ってやるか、それ以外の方法であるか考えていかなければならない。
- ・案内板…カムエクでは八ノ沢を通り過ぎて九ノ沢に間違っていく人がいる。沢に慣れていない、地図も持ってこない、スマホの地図だけ見て歩いている。沢を間違え、とんでもない所まで入る。私が知っているだけでも3～4人帰ってきていない。二百名山のカムエクは危険なのでツアーはやらないという。二百名山を目指している70代の3人がもう少しで完登と登って行った。八ノ沢でいくら待っても帰ってこない。次の日に下山して来たが、歩けなくて夜になり危険なのでピバークしたとのこと。歩けない人もいて、我々がリュックを持って何とか連れて戻った。その前にもかなりの高齢者が軽装備のザック一つで走ってきて、10時ごろからカムエクを日帰りすると言う。そんなむちゃくちゃな登山が増えてきた。最低限の案内板設置と登山レベルを知らせる必要がある。

○高橋健さん（日高山脈ファンクラブ）

- ・幌尻山荘のし尿人力運搬をするために、1993年からやっている先進地の早池峰にコロナ前まで管理人をしていた稲垣悦夫さんと二人で体験に行った。その時教えてもらったのが早池峰にゴミが似合わない実行委員会の菅沼代表。今回のフォーラムに参加しており、21年振りで再会した。人力運搬は2005年から10年間やった。ボランティアで続けていくのはどうかと思い、2015年から平取町に移管し、実際は平取町山岳会がやることになった。

- ・幌尻岳周辺の活動を長らくやってきた。山中に幌尻山荘があるが稜線には野営指定地はない。七ツ沼カールが山と溪谷で「天上の楽園」と紹介され、幌尻山荘に泊まらず七ツ沼カールに登ってテント泊する登山スタイルもあった。またチロロ林道コースは小屋が無いので、どこかでテント泊しなければならない。野放し状態でどこでもテントを張る。これから国立公園化されると登山者が急増しそうだ。どこでもテントを張っていいことで実際にいいのか？総合型協議会で検討して欲しい。
- ・七ツ沼カールは草地が裸地化して砂地になっている所がある。七ツ沼カールのどこでもよいということではなく、ここでテントを張ってくださいと指定するのも一つの手かなと思う。
- ・トイレ…日高側は登山口にトイレを設置して自治体とか山岳会が維持管理している。避難小屋とセットの所はトイレの規模が大きい、北トツタや芽室岳登山口は工事現場用のトイレ1基となっている。国立公園登山口のトイレとして1基だけでいいのか、工事現場用のトイレでいいのかといった課題がある。
- ・携帯トイレを普及していく中で、野営指定地を作るのであれば、どこかに携帯トイレブースを設置する必要があると思っている。稜線上はなかなか難しいと思っているが、カール内等で設置できればいいのかなと考えている。
- ・焚き火…日高と言えばイコール焚き火というイメージがあって、沢の中であればいいのではないかととの意見があることは承知している。しかし沢のどこからが国立公園の特別保護区かなと言ったら目印がない。であれば日高の国立公園では一律に焚き火は禁止することも考えていかなければならないと思う。熊が出るからとか、川魚を釣って食べたいから焚き火。それでこのままでいいのかなと感じている。

○藤木俊三さん（日本山岳会北海道支部）

- ・濃淡はあるが大学時代から50年の山歴。大学卒業してから北海道に来た。幌尻山荘のウニコ担ぎも5回ほど参加した。テレビ局に勤めていたので、25年前に日高山脈の1時間番組を作ったことがある。八ノ沢からカムエクに登って、主稜線を北に縦走、エサオマンから新冠川に下り、幌尻岳に登るルートだった。7月上旬で一番驚いたのは他の登山者には誰も会わなかったこと。もう一つビックリしたのは、ほとんど人工物は無かった。カムエク山頂にも標識がなく、エサオマン山頂に小さな山名の板切れがあっただけ。日高山脈の凄さを体いっぱいを感じたのを覚えている。
- ・トイレ…車が入れる登山口にはキチントしたトイレを整備する。携帯トイレの使用も大事。ただ携帯トイレブースをどこに設置するのか。人工物は日高山脈に似合わないと思うので稜線は難しいと思う。カールの目立たない所にどうやって作るのか。あるいは設置しないのか、議論の余地があると思う。携帯トイレの利用をどのように進めるのか皆さんで話し合っただけで欲しい。大雪山のトムラウシ南沼は酷かったが改善された。国立公園になるとマスコミ報道もあり確実に人は増える。外国人も増え、携帯トイレの使用方法とか山の登り方も含めて啓発が重要になってくると思う。
- ・野営地…稜線は狭いのであまりテントは張れない。ある程度張れるとするとカールかなと。北トツタの稜線やコイカクの頭など小さな裸地でテントを張っている。その扱いをどうするか。指定した場合の管理の仕方。人が殺到した時の調整をどうするか等の課題がある。
- ・登山道整備…大雪山のようになると日高らしさが無くなる。2mも3mもの幅での笹刈りはな

いと思うので、最低限事故が起こらない整備の仕方がいい。標識も最低限にして欲しい。日高らしさをどうやって保って安全に楽しく利用するか、みんなで話あっていくべき。

○仲俣善雄（山のトイレを考える会）

- ・どのような対策をするにも登山者の動向データが必要。山毎の登山者数、登山者がどこでテント泊しているか、携帯トイレの持参率などを調査。年度推移データも必要である。
- ・野営地…位置、裸地の面積、周辺にトイレ痕は無いかなど実態把握が必要。
- ・トイレ…国立公園の品格はトイレで決まると思っている。トイレが汚いと維持管理を怠っている国立公園となる。野営地にティッシュや汚物が散乱していると携帯トイレも使っていないのかとなる。トイレを汚しっぱなしの人は必ずいる。定期的な維持管理の実施、登山者が自ら清掃する仕組みが必要である。

○大橋政樹さん（北海道山岳ガイド協会）

- ・どのくらいの人が山に登っているか。私の肌感覚で。十勝幌尻岳は500～600人。エサオマンは300～400人。札内岳は400人。カムエク800人。コイカク・1839は500～600人。カウンを付けて登山者数を把握することが大事。沢の焚き火ですが、何も魚を焼くために焚き火をしているわけではなく、雨で全身ずぶ濡れになる時もあり、状況によっては焚き火も必要。カールでは焚き火は必要ないが、頭から禁止というのはないのではないかな。標識は必要な山と必要でない山がある。日高の困難な山はわざと標識は付けていない。熊は八ノ沢カールでは2回に1回は出遭う。各カールに1頭はいる。熊スプレーは必要と思う。

〔サブテーマ：野営地・焚き火〕

○仲俣善雄（山のトイレを考える会）

- ・チロロ林道コースのヌカピラ岳～北トツタ間は山頂を含めて4ヶ所の小さな野営地がある。トツタベツ山頂にもある。それに七ツ沼カール。カムエクに登る八ノ沢コースには八ノ沢出合い、標高点999m、八ノ沢カール、カムエク山頂付近の4ヶ所ある。コイカク～1839峰にも6ヶ所の小さな野営地がある。

○齊藤邦明さん（十勝山岳連盟）

- ・焚き火…七ノ沢出合いから野営地がある八ノ沢出合いまで沢歩きだが、増水時は腰まで水がある。体が冷える人もいるので焚き火が必要な時もある。八ノ沢出合いから上は焚き火をしない方がよい。
- ・野営地…コイカクの上は焚き火をする所はない。コイカクから1839峰は日帰りできない人もいるのでヤオロの山頂など小さなテント場で泊まる人もいる。大きな所では野営地を指定してもいいと思うが、小さな所は非常時のためのテント場として特に指定する必要はない。

○仲俣善雄（山のトイレを考える会）

- ・野営地…大雪山のように野営地を指定すると、指定地以外の所にテントを張ると「何でそんな所にテントを張っているのだ」となりかねない。私は既に利用しているテント場はルールを作り許容してもよいと思う。野営指定地としてキチンと指定してしまうと硬苦しくなってしまう。
- ・焚き火…沢登りの焚き火はいいのかなど。ただ七ツ沼カールでの焚き火とかカムエクでも標高点999mで焚き火の跡がある。ここではして欲しくないと思っている。

○高橋健さん（日高山脈ファンクラブ）

- ・焚き火…大橋さんの意見はごもっとも。非常時であれば焚き火をしようがビバークをしようが

何でも許されると私も思っている。ただイメージが日高＝焚き火が植え付けられていて、どこでもいいから焚き火、落ちている枯れ枝を燃やすのも私は否定だけど、ハイマツを切って燃やすのは違法行為。それを容認するかということ。沢登りで泊まるルートまで禁止というつもりはないが、歩道として指定されたルートでの焚き火については協議会で検討する必要がある。

- ・野営地…北トツタはどこでも張っている。数張りの所も日高ルールの野営指定地みたいな形にするのもありかなと思う。野営指定地には水場があつてうんぬんではなくて、日高はここでテントを張って欲しいみたいな。すべてのルートに野営指定地はいらないと思っている。集中する所に野営指定地を設定して欲しいというのが私の意見。

○大橋政樹さん（北海道山岳ガイド協会）

- ・野営地のトイレ…八ノ沢出合いのテント場では皆さん散らばって用を足している。テント型の簡易携帯トイレブースを設置してはどうか。あと気になっているのは、トムラ南沼では皆さん大の方は携帯トイレを使っているのですが、小が問題。秋になるとテントの周りが小便臭い。持ち帰るのは大変だけど、いずれ小の話も問題になってくるかと思う。

○山北育実さん（環境省帯広自然保護官事務所）

- ・焚き火…国立公園の特別保護地区はたき火は法律で規制されている。現在も国定公園に指定されており、地種区分が同じであれば規制内容も同じ。非常時は止むを得ないかと思うが、明文化してルールとして取り上げるかどうかについても検討が必要と思う。
- ・野営指定地…野営指定地を設定することに賛否両論がある。野営指定地を設定しても、そこまで体力的にたどり着けるかについても要検討。また、野営指定地設定には、イレ問題、ゴミ問題、ヒグマ対策などとセットで考えなければならない。日高全域で指定する必要があるかも要検討。登山者の増加が想定される幌尻岳とカムエクだけでも良いかもしれない。指定しないにしても、現状の裸地以外の植生上には張らないといった最低限のルールは必要と思う。いずれにせよ、土地所有者である国有林等との調整、協議会にて検討する事項と考えている。

○仲俣善雄（山のトイレを考える会）

- ・野営地…登山者は登山計画を立てる時にどこにテン場があるのかを知りたい。そのような情報は必要と思う。
- ・焚き火…エサオマンの登る時に沢の広い河原で2泊した。生木やハイマツを切って燃やすのは駄目だが、流木であればいいのかなと思う。ビール缶を燃やす人がいて残骸が残っている。それは止めて欲しい。

【サブテーマ：トイレ】

○仲俣善雄（山のトイレを考える会）

- ・大雪山ではトイレの無い野営指定地に順次携帯トイレブースを設置している。日高は稜線に山小屋などの人工物がないのはよかったと思っている。携帯トイレブースも設置しない方がいいのではないか。設置したらその維持管理が大変。直接便座に排泄する人もいる。常設だと冬囲いもしなければならぬ。ハイマツ等の影に隠れる所があれば設置しない方がよい。日高の稜線やカールに携帯トイレブースは必要ないというのが私の考え。慎重な検討が必要である。

○高橋健さん（日高山脈ファンクラブ）

- ・確かにカールとか時間がかかるので行くのは大変だが、今の仲俣さんの意見をそのまま通してしまうと全てのカールがトムラウシ南沼状態になるのではないか。それを山のトイレを考える

会の事務局長が容認するとの意見ですか。

○仲俣善雄（山のトイレを考える会）

・私はよほど酷い所でないと、カール等に携帯トイレブースを設置することには反対。

○高橋健さん（日高山脈ファンクラブ）

・現状として泊まっている人がいるわけです。その人たちに幕営禁止というわけですか。

○齊藤邦明さん（十勝山岳連盟）

・仲俣さんの言うことも高橋さんの言うこともよく分かる。十勝側で八ノ沢カールまで年に何回も行くことは無理ですが、八ノ沢出合いであればブースがあればいいなと思うことはある。笹が繁茂しているので、その陰で携帯トイレを使えばいいのかなとも思う。ブースを設置するとそこで泊まる人が多くなる。

・八ノ沢カールとかエサオマンのカールに泊まれないことはないが、あそこは熊の餌場。あそこに2日も3日も泊まったら必ず熊が来る。そこはできれば避けて通過して欲しい。過去には写真家が何日もカールに泊まった。3日目に熊は必ず追い出しに来る。熊にしてみれば餌場につまでも人間が居座っているのが邪魔だということだろう。熊は通り過ぎるのは見過ごす。八ノ沢カールでは岩場もあるのでその陰で携帯トイレを使うことはできる。

○大橋政樹さん（北海道山岳ガイド協会）

・初心者の方は携帯トイレブースがないと難しいかも知れないが、基本は隠れる所があれば、便座が無くてもできる。ブースは初心者向けのPRにもなっていると思う。

【サブテーマ：登山道・案内標識】

○仲俣善雄（山のトイレを考える会）

・国立公園計画では登山道（歩道）18路線指定されたが、誰が維持管理をするのかの話になる。大雪山国立公園は約300kmの登山道があるが、管理者（事業執行者）がいるのは約60数パーセント。現在の国立公園では管理者を指定している登山道はない。

・案内標識だが、チロロ林道コースから幌尻岳に登って下山する時に北トツタベツ山頂で、間違っただけでそのまま真っすぐピパイロ側に行く人がいて遭難が発生した。それを防止するために案内標識を設置した例がある。

○高橋健さん（日高山脈ファンクラブ）

・私は反対だった。本州の人がピパイロ側に誤って行ってしまい亡くなった例があり、警察署から頼まれて役場が設置したとの経緯がある。

○大橋政樹さん（北海道山岳ガイド協会）

・みんなが迷う所は決まっている。最低限そこだけ何か対策を打てばいいのかなと思う。

○仲俣善雄（山のトイレを考える会）

・登山道の維持管理、みなさんどうするとよいと思いますか。

○齊藤邦明さん（十勝山岳連盟）

・芽室岳には元々湿地みたいな所に登山道を付けた所がある。ちょっと傾斜があると掘れて崩れる。トムラウシ山に新得側から登るコースで長い泥濘部分があり、ボランティアで木道設置に参加。かなり歩き易くなった。おそらく芽室岳の登山道も酷くなるのかなと思っている。結構深く抉れており、簡単には治らないのだろうと思う。

○仲俣善雄（山のトイレを考える会）

- ・大雪山国立公園で大雪山山守隊の岡崎さんが近自然工法で登山道整備をしている。日高でもそのような工法を学ばなければならないかと思う。

○藤木俊三さん（日本山岳会北海道支部）

- ・今のところ登山者が少ないので大雪山の登山道のような酷い荒廃は無いと思うが、登山者が多くなるとカールを所構わず歩き裸地が拡大したり、登山道では複線化が進み脆弱な高山植物が踏み付けられる可能性がある。またローピングは大雪山とか夕張岳では必要なのかも知れないが、見た目にもよくないし日高には相応しくないと思う。日高山脈の登山道も事業執行者を決めて維持管理する方式となるのか。

○山北育実さん（環境省帯広自然保護官事務所）

- ・事業執行者が決まることが望ましいが、簡単でない。環境省で全ての登山道を管理することも厳しい。日高山脈は他の国立公園と違って人の手が入っていない。登山道であっても人の気配が感じられないというのが魅力で登山者が憧れて来ると認識している。国立公園化で雰囲気や壊すことが無いよう十分考えなければならない。整備するというと木道とか人工物を思い浮かべる方も多いと思うが、踏み跡程度の笹刈りをするのも「整備」と表現しており、踏み跡程度の笹刈りをするのか、それとも整備をしない路線とするのかについても検討が必要。アポイ岳のような初級者向けの山など整備が必要な路線もある。メリハリ付けた登山道整備を協議会で検討できればよいと思う。また、日高山脈は上級者向けの登山ルートが多数占める中で、アポイ岳のような比較的初級者向けの山を案内する等の周知も必要。

○大橋政樹さん（北海道山岳ガイド協会）

- ・日高山脈は南アルプスの南部の雰囲気似ている。スケールは南アルプスの方が大きいですが、似ている所がよいと思っている。

〔その他：整備資金の確保など〕

○佐藤眞さん（札幌山岳連盟）

- ・皆さん何か忘れていませんか。お金です。結局整備にはお金がかかるわけで、お金があれば解決できることって結構あるのではないかと思う。我々登山者は何も負担せずに自然を享受するのはちょっと違うのではないか。入山料みたいなことを考え、お金を何とか集める仕組みを作る必要がある。その変わりしっかりしたサービスを受けることができるように、その辺を検討する。
- ・環境省とか森林管理署にお願いがあるのは、やはり日本の政治というのは行政の縦割りは大変壁になっていると思う。その辺はいたしかたないが、我々がそのようなことにも目を向けて環境省を応援すると環境省も強くなって、職員もレンジャーも増えるのではないか。現場にいるとどかしいと思っていると思うが環境省は専門の所なので頑張りたいと思うし、私は環境省を応援している。我々も金銭的なことは少し覚悟しておいた方がいいのではなかと。日高山脈は皆さんが言っているように他の国立公園とは違いハードルが高いことをアピールすることも必要でないか。

○仲俣善雄（山のトイレを考える会）

- ・整備資金は非常に重要。大雪山でもどうやって整備資金を集めるか悩み検討している。登山者の協力金、企業の寄付金、クラウドファンディングなど多角的に検討している。登山者はある程度の負担が必要である。

○山北育実さん（環境省帯広自然保護官事務所）

・私は皆さんの意見を聞きたくて楽しみにして来た。今日は賛否両論の意見がありよかった。国立公園指定後に設立される総合型協議会の参考にしたいと思う。

○藤木俊三さん（日本山岳会北海道支部）

・いろいろな形で我々民間が力を出していかなければと思うが、いかんせん高齢化が進んでいる。若い人たちを山の整備とかボランティア活動に引き込むことが重要である思う。

○菅沼賢治さん（早池峰にゴミは似合わない実行委員会）

・6年振りにフォーラムに参加。皆さんが北海道の大自然を未来の子供たちに必ずや送り届けるとの気迫を感じ圧倒された。野営地や焚き火についての個人的な意見ですが、そもそも登山は自然を求めて山に登るはず。そこで利便性や快適性を求めるというのは、全く不自然そのものでないかと思う。利便性や快適性を求めて登山行為を続けていたならば、かけがいのない自然が、やがて少しずつ改変してしまい、取り返しがつかなくなってしまうのではないかと危機感を感じている。トイレについては全国で同じ悩みを抱えている。問題の当事者が我々登山者でもあるにもかかわらず「もっと綺麗にして欲しい」「もっと快適なトイレにして欲しい」と求めてくる。それに応え続けた結果が、山のトイレ問題を生んでいるのではないかと感じている。今ある自然は未来の子孫からの預かりもの。素晴らしいこの山岳自然を未来の子供たちに送り届けるためにも、トイレに関しては携帯トイレという究極のトイレ方法があるので、ひとりでも多くの方に理解してもらい、その輪を広げることによって送り届けることができると思っている。北海道、早池峰とどんどんこの輪が広がっていくことを望んでいる。今日は素晴らしい体験をさせていただきありがとうございました。

○加藤哲朗さん（帯広勤労者山岳会）

・日高山脈が国立公園になった時にどういう姿になるのか分からないので、将来像がピンとこないのが不安なんです。そこで、日高山脈は携帯トイレを使ってし尿を持ち帰ることを目指そう！という理念を定めるといのはどうでしょう・・・。回収ボックスの維持管理、携帯トイレの処分は周辺の自治体に協力を求める。十勝という名前をつけると言っている自治体もありますよね。そこには携帯トイレの回収に協力しますよ、と言わせる。勿論、その費用に関しては環境省が補助金をつけることを考える。4月の環境審議会では、事務局の環境省は、十勝という名称を国立公園名に付け加えることの、意義付けを説明しなければならないことになっていると思う。それについては、国立公園の登山者のし尿は携帯トイレを使って持ち帰るので、回収ボックスの維持管理は自治体に協力してもらわなければならない。その枠組を作るからオール日高、オール十勝、両側の名称を冠して盛り上げていく必要があるみたいな理由付けをして、日高山脈は携帯トイレの完全使用を目指そうじゃないかと理念的に高らかに宣言する。それを山のトイレを考える会とかが主張してもらって、他と違う国立公園にするんだというようなイメージを共有できたらいいのではないかと思う。

（記録：山のトイレを考える会）

